

(別記)

上川町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田面積に占める主食用米面積の割合が約 40%で、転作面積に占めるそば、飼料作物の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

しかし、農家の後継者不足や農業従事者の高齢化が進行しており、集落の経営実態を考慮した農地の効率的利用とともに、集落営農及び法人経営を主体とした大規模経営体と高収益作物を主体とした個別経営体の育成が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針

町内の約 548ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米づくりを基本とし、栽培基準の統一化を図りながら減農薬・減化学肥料を合わせた高品質米として、特別栽培に取り組む。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷コストの低減による生産性向上を図る。

イ WCS 用稲

町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷に努める。

ウ 加工用米

もち米の加工用米について、切り餅や米菓の用途について今後販売量増加の見込みから、栽培面積を拡大し、水張り面積の確保と地域の水稲面積の維持を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、地域ブロックローテーションの中心として位置付け、適正な輪作体系の維持・確立を目指す。飼料作物については、町内畜産農家との供給契約により必要量の確保と出荷に努める。

(4) そば

地域における高齢化が進行する中、そばを水稻転作の中心作物として位置付ける。産地交付金を活用し、町の特産物として付加価値を高め所得向上を図るとともに、担い手の作付面積の拡大を図る。

(5) てん菜、馬鈴しょ

てん菜、馬鈴しょについては、地域ブロックローテーションの中心として位置付

け、適正な輪作体系の維持・確立を目指す。

(6) 野菜

「かぼちゃ」を重点振興作物、「ミニトマト」「ピーマン」「アスパラ」「きゅうり」を振興作物、「花き（カーネーション、菊）」「メロン」「小豆」「モロッコいんげん」「スイートコーン」を一般作物として拡大する。

(7) 不作付地の解消

現行の不作付地（23ha）について、担い手への集約を図り解消を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	224.3	202.0	190.0
飼料用米	4.3	8.1	8.1
WCS 用稲	5.0	7.8	7.8
加工用米	8.4	37.8	49.8
大豆	21.4	25.0	25.0
飼料作物	131.0	128.7	120.0
そば	100.4	100.0	100.0
その他地域振興作物	28.0	21.9	21.4
かぼちゃ	3.1	2.4	2.1
ミニトマト	3.1	1.1	0.9
ピーマン	0.1	0.1	0.1
アスパラ	5.6	3.4	4.2
きゅうり	0.8	0.1	0.1
花き	0.3	0.1	0.1
メロン	0.3	0.1	0.1
ズッキーニ	0.1	—	—
スイートコーン	0.7	2.8	0.2
モロッコいんげん	0.2	0.3	0.2
小豆	1.0	0.3	0.4
地力増進作物	12.7	6.5	13.0

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
1	そば	地域ブランド育成 のため統一品種の 播種などの生産 性・品質向上対策 を実施したほ場での 作付面積の維持 (水田)	ア	実施面積	100ha	100ha (100ha)	有
2	そば、大豆、かぼち ゃ、花き(カーネーシ ョン、菊)、メロン、ミ ニトマト、ピーマン、 アスパラ、きゅうり、 小豆、モロッコいんげ ん、スイートコーン	担い手による作付 (水田)	ア	実施面積	130ha	116ha	有
3	かぼちゃ	高生産性・高品質 な作物の作付(水 田)	ア	実施面積	2.9ha	2.4ha	有
4	振興作物(ミニトマ ト、ピーマン、アスパ ラ、きゅうり)	高品質な振興作物 の作付(水田)	ア	実施面積	7.7ha	4.8ha	有
5	大豆、飼料作物(牧 草、デントコーン(WC S用稲、飼料用米を除 く))、そば、かぼち ゃ、花き(カーネーシ ョン、菊)、メロン、ミ ニトマト、ピーマン、 アスパラ、きゅうり、 小豆、モロッコいんげ ん、スイートコーン、 地力増進作物(地力え ん麦、地力ひまわり)	農地を集積・集約 化することで生産 性の向上、コスト 削減を目指す(水 田)	ア	実施面積	186ha	185ha	有

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を

生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり